

小規模校のメリットが 存分に生かされる 少人数教育

武蔵丘短期大学 学長 川合武司

取材・文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1939年生まれ。順天堂大学体育学部卒業。順天堂大学スポーツ健康科学部教授、同大学院スポーツ健康科学研究科後期博士課程教授などを経て、09年より現職。順天堂大学名誉教授、全日本大学バレーボール連盟副会長。

【大学プロフィール】1991年創立。健康生活学科 健康栄養専攻に健康食育、スポーツ栄養など5コース、同健康スポーツ専攻にスポーツ教育、健康ビューティーなど6コースを用意。日本体育協会公認アスレティックトレーナー承認校。

戦後60年にわたり「衣」「食」のプロを養成する専門学校を運営してきた後藤学園が1991年「健康づくりの実践的指導者の育成」を目的に開学したのが本学です。健康生活をテーマに設立した大学の先駆けといつていいでしょう。

今春、学長に就任するまで、私は大学バレーボール界を中心にスポーツ指導の世界に身を置いていました。そこでは「いい選手を養成するには、いいトレーニング、栄養、休養が必要だ」と言い続けてきました。その3つのバランスが崩れていってはトップアスリートなど育たないというのが持論です。

そんな経歴もあり、私はこの学校に大変興味がわきました。それは健康生活学科に「健康スポーツ専攻」と「健康栄養専攻」を有し、先の3要素のうち2つを学べる環境が整っていたからです。これは短大として大きな魅力です。ここで学ぶことで最高の指導者が誕生するはずだと期待を高めました。

学長就任後、私は選手を指導するときと同様、まずは観察とばかりにキャンパスを歩き回りました。学生には活力があり、先生方も大変熱心なことがわかりました。小規模校のメリットが生かされコミュニケーションもとれています。なに

せ定員400人の学校に専任の教員が31人もいます。学生13人に1人の割合です。こんな恵まれた学校はなかなかありません。

短大の意義は短期速成型の教育内容を整えていることです。のんびりする余裕などないほど集中的に学び学生は成長していきます。手厚い就職支援体制も手伝い、将来どんなところでも耐えられる、即戦力たる人材を養成できるのです。

そんななか卒業生の約2割にあたる40名近くが毎年、4年制大学編入を果たしています。これはとても素晴らしいことです。様々な考えや経済事情により短大に入学したが学問に向き合い、学ぶ意欲がかき立てられたことで進学を決意したわけです。それは本学の教育の成果ともいえるでしょう。

よく「生きる力」と言われますが、その基本は健康であり、それを支えるのが運動と栄養です。高校生にとって健康は当たり前なのに感じるかもしれません。でも人生は長い。長いスパンで人生や健康について考えてもらいたいし、そういう広い視野に立てる人にぜひ来てほしいのです。自然に恵まれた静かな環境なのか、学問を通して生き方を学んでもらえればと期待しています。